

シャクヤクの花型



一重咲き

めしべを囲んで数多くの完全なおしべがあるタイプ。

日本の芍薬は、このタイプが主です。



金蕊(しべ)咲き

一重咲きで、おしべが大きく発達して盛り上がるタイプです。

一重咲きより派手さがあります。



翁咲き

一重咲きで、細い弁が花の中心部に集まっているタイプです。

おしべの弁化がさらに進み、葯(やく)と花糸の区別がなくなったものです。



冠咲き

翁咲きのおしべの弁化が更に進み、内弁が大きくなったタイプです。

中心部が大きく膨れあがっています。



てまり咲き

冠咲きよりも更におしべの弁化が進み、内弁のほとんどが立ちあがったタイプです。花の丈が高く、花全体が豪華な印象です。



半バラ咲き

内弁が発達し花弁との区別がなく、花の中心部と中段におしべがあり、完全な花が2つ重なったように見えるのが特徴です。



バラ咲き

半バラ咲きのおしべがまったくないタイプです。



半八重咲き

花びらの多いタイプです。花の外側から内側に向かって花びらが小さくなるのが特徴です。